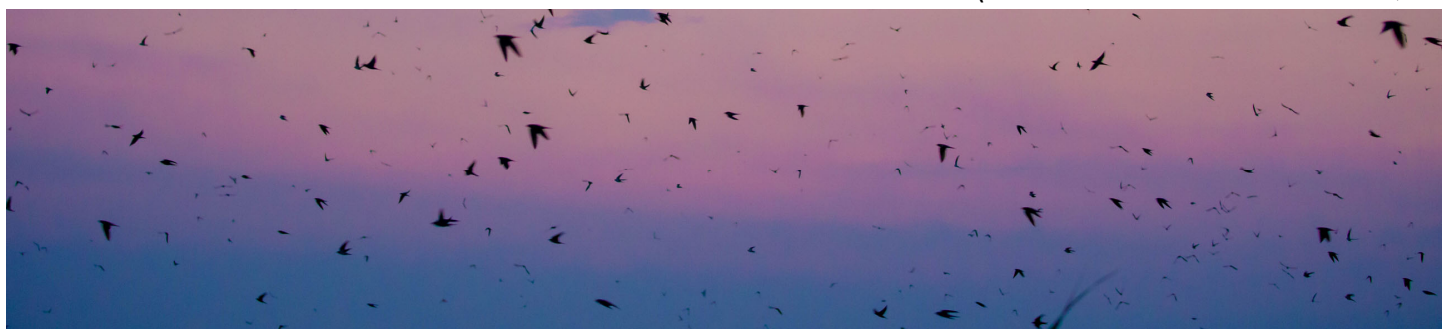


台風19号による攪乱はツバメの集団ねぐらにとって吉か凶か ～東京の河川域ツバメ集団ねぐら調査2020～

渡辺仁(NPO東京生物多様性センター)



はじめに 台風19号により集団ねぐらのヨシ原が流された？！

2019年夏季、東京都のツバメ集団ねぐらは多摩川の2箇所（日野市と大田区）だけが報告されています。

10月12日に襲来した台風19号ハギビスは近年稀に見る河川の増水を引き起こし、多摩川等の河道内の植生を流出させ、これらのツバメの集団ねぐらのあった環境は激変してしまいました。近年、多摩川のヨシ原は樹林化・外来植物の侵入などにより衰退する一方でした。台風19号は、現存する集団ねぐらの環境を攪乱しただけでなく、過去に集団ねぐらが樹林化等により放棄された地域の植生をも流出させました（下写真参照）。河川は出水により攪乱される生態系であり、台風による攪乱でヨシ原が再生し、すでに失われたツバメの集団ねぐらが復活する可能性もあるかもしれません。また、新たな地域にヨシ原の生育に適した環境を生み出すかもしれません。

果たして、台風19号は2020年以降のツバメの集団ねぐらにとって良い影響を及ぼすのでしょうか。それとも悪い影響でしょうか。これを明らかにするために、本調査研究では、台風19号の攪乱後のツバメの集団ねぐらの変化についての調査を実施するものです。



ツバメの集団ねぐらのあったヨシ原の変化の一例（府中市四谷橋下流・多摩川）

調査地域

東京都全域（主に多摩川流域・荒川流域）



調査・研究内容

①分布調査

5～9月の集団ねぐら形成時期に、調査地域の主に河川沿いを踏査し、日没時の目視観察・日没後のライト付きプロミナー（ツバメに影響を与えない照度）やビデオを用いた調査により分布位置、ねぐら環境（植生等の環境条件）及び概略の個体数の記録を行います。

特に、過去にツバメの集団ねぐらが存在し、ヨシ原の植生遷移等で失われた地点（世田谷区新二子橋上流、府中市四谷橋下流、八王子市日野用水堰上流等）は重点的に調査を実施します。

②ねぐら環境調査

多摩川と荒川の河川域において、台風19号前後にどのように環境が変化したか、ねぐらのあった環境の植生や増水との関係など、現地調査と既存資料調査により記録し、解析します。

※) 調査は当NPOだけでなく、地元の自然保護団体、野鳥観察団体等と連携して行います。

期待される成果

- ツバメの集団ねぐらの分布を明らかにすることで、地元の自然保護団体、野鳥観察団体、行政に保全への協力を働きかけるための基礎資料とします。
- 台風19号による増水の影響を明らかにすることで、ねぐら環境（主にヨシ原）の保全に必要な条件が明らかになり、具体的な保全計画を提案します。
- 人口の多い東京でツバメの集団ねぐらを観察しやすい地点を発見できれば市民の自然への関心を高め、大きな啓蒙効果が期待できます。（特に、未発見の荒川流域で集団ねぐらが発見されれば大きな波及効果が期待できます）

期待される成果（プラスアルファ）

- 調査・研究ではありませんが、調査結果は、報告会の開催、インターネットを用いた広報（Youtubeでの生態映像の公開含む）を行う事により、市民の関心を高める活動も行います。

支援を得られた場合

調査地への交通費、ライトや撮影機材等の購入費等に用いる計画です。

